

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

（代表者 石井 杉生 会員数 約1,000名）

T E L 042-661-0444

1 前 文

出題内容は、高等学校学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいと内容に、おおむね即しており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問・難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養した思考力^{かんよう}に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。

年々問題作成が厳しくなっていく状況にあって、基礎的基本的な知識の理解とそれに基づく思考力や判断力を問う問題を作ろうとする大学入試センターの努力と意欲を高く評価する。また、そこに大学人としてのインテリジェンスとメッセージも込めなければならず、加えて、高校生が問題を解きながら、自らが初等中等教育で培ったものを大学で更に高めていくことの楽しさやすばらしさを実感できる問題を作成しようという熱意に敬意を払う。それでも後期中等教育の現場にある公民科担当教員としての視点からすれば、いくつかの改善を求める点があることも事実である。例えば、リード文と各問の有機的な関連が欲しい。「現代社会」や「政治・経済」以上にメッセージ性が高く、文章としての格調も高いリード文を提示する「倫理」ならでは、この関連が希薄になることは極めて残念でならない。若い人々に高等学校の授業において読ませたい文章が多いだけに、高校生が学んだ学習の成果を背景に、それぞれの大きな問でどういう切り口でどういうテーマを扱うかを受験者に理解させ、その文脈を考えることを通して正しい答えを導けるような問いの作り方を工夫していただきたい。もとより、正しい知識が備わっているかを問うことは大切である。しかし、そこでとどまるのではなく、その知識を使って考えた結果、初めて正解が見えてくる問いの作り方を期待する。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問数5、解答数37からなる全体としては、質、量ともに標準的な良問と言える。極端に知識に偏った専門的な用語を尋ねることもなく、思考力や判断力、資料読解力等、幅広い能力を問う。改善を求めたい点は個々に指摘することとして、ここでは全体について触れる。

昨年に続いて、大問の中を小分けにすることもなく、大問としてのストーリー性、メッセージ性を大切にしている点も評価できる。前文で示したように、これだけ内容のあるリード文をもっと有機的に活用されることを期待する。

第1問 「悩む」ことを手掛かりに青年期の課題を考える問題。リード文は分かりやすい文章でつつられているが内容は深い。「悩む」ことを恐れているかのように見える今日の高校生に、「悩む」ことが青年期の特権であり、すばらしいことであると同時に、「悩む」ことは若者だけのことではなく、私たちがよく生きようとすればするほど「悩む」ことになることを伝え、

「悩む」ことを恐れず生き抜くことの大切さを訴え、「悩む」ことで私たちは成長するのだという出題者の高校生への強いメッセージが込められている。リード文を読んだ高校生に感動を与えた分、その後の問いが、リード文を読まずとも解ける内容に終始し、残念だ。やはり、リード文を読んでこそ問いが分かるような有機的な関連のある問題作成を期待する。

問1 統計資料の読み取り。平易ながらリード文との関係を踏まえ、現実には人々がどのように「悩みや不安」をとらえているか、世論調査の結果から考える。

問2 自我同一性を見失っている心理状態の例として適当なものを選ぶ平易な問い。選択肢を一つずつ丁寧に読めば正答は容易。

問3 エリクソンの発達段階についての基礎的基本的な問い。おそらくエリクソンの発達段階を知らなくてもA～Dを丁寧に読み、ア～エとば対比させていけば正答は容易。

第2問 人々は「現実」とどのように向き合ってきたかを、先哲の思想をたどりながら、それぞれの思想家の特徴を確認していく問題。リード文ではだれでも知っている思想家を扱っており、問いも平易である。授業で学んだ思想家についてあらためてとらえ直すことで、基礎的基本的な知識を整理することがねらいなのだろう。ただ、リード文の中で高校生にはなじみの薄い思想家を紹介しても、学習の奥行きを示し、高校生に学ぶ楽しさを伝えるメッセージになるだろう。

問1 思想家や用語を尋ねる基礎的基本的な問い。

問2 エピクロス思想について尋ねる。内容は教科書でも扱われる程度であり、平易である。

問3 アリストテレスの「調整的正義」について、正しく理解しているかを問う。リード文の理解は必要としない。

問4 リード文を離れ資料として提示された聖書の一節を読み込むことによって正解が得られる。一瞥^{いちべつ}しただけでは神に任せるとするのは想像できないだろう。ただ、資料文の論理的な読解を求める割には、選択肢の文が大ざっぱで、高校生はともすると当てずっぽうで答えを選んでしまうかもしれない。

問5 イスラームについての基礎的基本的な知識を確認する問い。

問6 ブッダの教えについての基礎的基本的な知識を確認する問い。

問7 老子の思想についての基礎的基本的な知識を確認する問い。

問8 本文の趣旨に合致するものを選ぶ問い。リード文の最後を読めば正解が得られる。

第3問 日本の思想において「他界」はどのように考えられてきたかを振り返りながら、日本の思想の特徴を明らかにし、高校生に向けて、高等学校で学んできたことがどのように学問につながっていくか、示唆したものである。高等学校で「倫理」をきちんと学んできた生徒ほど納得ができる秀逸なリード文になっている。

問1 黄泉国にしろ林羅山にしろ、教科書で扱われるほどに知られている思想家だが、文脈の中でとらえさせることで、思考力を涵養しようという意図が見られる。

問2 生活文化に関する問いと考えられる。資料文を読み、丁寧に考えをたどっていけば正解は容易である。平易ながら考える大切さを示したいという意図がくみ取れる。

問3 『往生要集』に関する基礎的基本的な問い。

問4 荻生徂徠についての基礎的基本的な問い。

- 問5 神仏習合について出題するのは問題ないが、権現信仰は教科書レベルとしては難しかったかもしれない。ただし、四つの選択肢があり、適当でないものを選ばせる問いであるので、正答を得られないわけではない。
- 問6 会話を一読すれば、西に行くことになるという正解は、得られなければいけない。しかし、この問いの意義は古典落語を示すことで高校生に教養の範囲を示した点にある。ともすると狭い知識しか求めない現在の高校生に警鐘を鳴らしたと言える。一方、心ある高校生であればあるほど、この問いを解いて楽しさを感じたことと推察される。なぜなら、学問の持つ寛容さ、奥の深さと間口の広さが感じ取れるからである。いよいよ学問の世界に踏み入れることになる高校生に、このような問いを通して大学人からの心が伝えられていることは喜ばしいことである。
- 問7 幸徳秋水についての基礎的基本的な知識を問う。正解以外の選択肢もすべて代表的な思想家のことを述べており、教育的配慮がなされている。
- 問8 本文の趣旨に合致するものを選ぶ問い。①以外の選択肢には「大切なもの」「大切である」「必要である」という表現があり、①と②～③とで表現が異なり、形の上から①が正答という手掛かりになっている。四つの選択肢の表現をそろえる必要がある。
- 第4問 理性のあり方を近現代における西洋思想から分かりやすくリード文で示し、平易ながらきちんと物事を考えていくことの大切さを理解させつつ、西洋思想について問う。
- 問1 [22]は訂正が入り、④が主体的から現実的に変わったとは言え、やや難しい。[23]は教科書を読んでいれば正答が得られる平易な問い。
- 問2 フランス啓蒙思想家についての知識を問う。高等学校の授業でここまで細かく学習することは少ないのではないか。その意味では高校生には難しかったかもしれない。
- 問3 デカルトの考えについての基礎的基本的な知識を問う。
- 問4 ベンサムについて問うが、カントの主張と対比させてベンサムの立場からすればどのような主張になるかを考えさせて解く工夫が施されている。
- 問5 キルケゴールの考えについての基礎的基本的な知識を問う。
- 問6 パースの考え方について資料文を読ませて内容を把握させ、そこから考えて正解を導く問い。
- 問7 フーコーについての基礎的基本的な問い。
- 問8 本文の趣旨を踏まえ、下線を施した語句の意味を問う。正答は得られるものの、正答④の中にある「対話によって」というところはリード文では明確にされていないと思われることから、正答④を導き出すのは無理があるのではなかろうか。
- 第5問 「正しい行為とは何か」という問題提起は大切であり、「倫理」を学ぶ生徒に学習の視点を示すことは大切である。その点では、後半に表れるケアの倫理は生徒にとってはこれまでの「倫理」の学習では触れることのなかったところである。こうした切り口がよい出題なのか、あるいは避けるべきことなのか、判断が分かれるところである。
- 問1 ハーバーマスの考え方についての基礎的基本的な知識を問う。
- 問2 第二次世界大戦後の国際社会が、国家や軍の非人道的な行為を防ぐ努力を積んできたことについての知識を問う。「倫理」を学ぶことでこうした内容を視野に入れ考察を深めてい

かなくなくてはならないことは認める。しかし、ここで問われている内容は「政治・経済」での事柄になり、高等学校での学習を考慮すれば「倫理」で問うのは避けた方がよいと考える。

問3 人権についてあらゆる人々が平等に尊重されることは「倫理」を学ぶときに大切なものの見方や考え方になることは言うまでもない。高等学校で学ぶからには、この問いは正解できなければならないということも分かる。しかし、この選択肢で示されたところまで「倫理」で学習するかとなると、高等学校での実際の授業では難しい。選択肢の記述だけを見ると、前問同様「政治・経済」の範疇^{はんちゆう}と考えられる。

問4 資料を丁寧に追っていけば正答は得られる。ただ、内容が「倫理」の出題としてふさわしいのかどうか、疑問が残る。

問5 設問の意図を理解し、資料を丁寧に読めば、正解は容易に得られる。

問6 現在の日本社会における家族についての問いであるが、リード文を読まなくても、十分解答できる。

問7 本文の趣旨に合致するものを選ぶ問い。リード文の最後のところが理解できていれば平易。